

誌は「昆虫」“Japanese Journal of Entomology”を踏襲し、巻号もそのまま継承する。内容は総合的なものとし、和文原著論文、総説、短報、英文誌の抄録に加えて、書評、大会案内、会記などのニュースレター的なものを掲載し、少なくとも年に2回は発行する。

2) 財政の健全化：学会事務センターと学会の会計年度が一致していないことから生じる混乱を防ぐため、学会事務センターからは適宜情報をえるよう努力する。現在の複雑な会計帳簿を明確化するため貸借対照表の適用などを検討し、本委員会の任期中にその結論を学会長に報告する。

3) 学会賞：「若手・中堅の会員の業績の顕彰を念頭においたなんらかの賞の創設を考えるべきである」とするワーキンググループの中間報告を評議員会に報告する。賞の具体的な内容はワーキンググループで引き続き討議したのち、本委員会の任期中に会長に報告する。

(委員長, 山根正気)

通信評議員会投票結果

「学会誌の改革」における会則第3条の変更(会誌の誌名)を伴う改革の実施については、“将来問題検討委員会の下にワーキンググループを設置し、具体的な会誌の改革の詳細を検討し、ここで早急に結論を出し、評議員会(書面)の承認を受ける”, という総会での決定事項に従って、将来問題検討委員会の第一次答申内容の緊急の課題に当る「改革の骨子」に対する可否投票を評議員にお願いし、1997年11月25日に投票を締切り、集計した。その結果は以下の通りである。なお、回答は評議員総数30名中の29名であった(回収率96.6%)

投票結果

将来問題検討委員会の答申(第一次報告)の「改革の骨子」

(1) 会誌の改革について, (2) 財政について, (3) 学会賞について

以上の答申内容の実施について, 了承する(27名), 反対する(1名), 白紙(1名)
以上の結果, 将来問題検討委員会の第一次答申は過半数をもって承認された。